

令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	16	学 校 名	静岡県立小山高等学校 (全日制)	校 長 名	櫻井 教文
------	----	-------	---------------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	地域社会と連携した教育活動を推進する。	・「部活動、生徒会活動、学校行事などを通して、地域との交流が図られている。」生徒、教員 80%以上	(生徒課) 生 徒 85.6% 教 員 90.8%	A	・小山町、各種団体との連携により多くの生徒が地域と連携し、探究・奉仕活動を行った。 ・通常の業務を圧迫しないスケジュールを検討したい。
ア	生徒の適性や希望に応じたきめ細やかな進路指導を行う。	・「学校は進路情報を提供し、進路説明会を開くなど、計画的な指導を行っている。」生徒、保護者 80%以上 ・「学校の進路指導には満足している。」生徒、保護者 85%以上 ・「(3年生進路決定者のみ) 決定した進路先に満足している。」生徒、保護者 95%以上 ・「(教員のみ) 学びの基礎診断、模試を学習指導や進路指導に有効活用した。」教員 80%以上	(進路課) ・「計画的な指導」項目 生 徒 97.4% 保護者 92.9% ・「進路指導に満足」項目 生 徒 97.4% 保護者 82.3% ・「進路に満足している」項目 生 徒 98.8% 保護者 95.8% ・「学びの基礎診断活用」項目 教 員 72.0%	B	・生徒、保護者からは本校の進路指導については肯定的な評価が得られた。 ・進路情報の提供内容や伝達方法については不十分な面があった。また、模試分析についても教科間で内容に差があった。 ・進路情報の伝達方法やタイミング、内容について検証を行う必要がある。 ・他校の実施例を紹介するなど模試分析の内容を充実し、授業改善へ繋げるため再考する必要がある。
イ	主体的・対話的で深い学びを推進する。	・「先生方は、わかりやすく学力がつく授業を行っている。」生徒 90%以上 ・「生徒は、授業や課題に主体的に取り組んでいる」生徒、保護者、教員 80%以上 ・「(教員のみ) 総合的な探究の時間の趣旨を理解し、指導することができる。」教員 80%以上	(教務課) ・「学力がつく授業」項目 生徒 88.5% ・「授業や課題に主体的」項目 生 徒 94.8% 保護者 80.4% 教 員 52.0% (総探担当) ・「総探の趣旨理解と指導」項目 教 員 68.0%	B	・3年生の総合的な探究の時間について、時間を有効活用できていない。適切な支援ができず「自習の時間」のようになってしまっていることが多々あった。 ・総合的な探究の時間について、1年生の頃から進路を意識した探究課題を設定させ取り組ませることを検討したい。
イ	教育D Xを推進する。	・「学校は、ICTの活用等、授業改善に積極的に取り組んでいる。」生徒、保護者、教員 85%以上	(教務課) 生 徒 91.5% 保護者 90.1% 教 員 96.0%	A	・課題提出や情報共有がしやすく、有効的に活用できている。 ・一人一台端末は1年生の使用 방법에問題があった。情報リテラシーをしっかりと意識して端末

様式第3号

					を利用させる方法を考え、徹底させていく。
ウ	生徒の主体的な活動を推進する。	・「生徒は、生徒会活動や学校行事に主体的に取り組んでいる。」生徒、教員 90%以上 ・「笙陵祭、修学旅行、クロスカントリーなどの学校行事は充実している。」生徒、保護者、教員 90%以上 ・「部活動はさかんで充実している。」生徒、保護者、教員 90%以上	(生徒課) ・「特別活動に主体的」項目 生徒 95.6% 教員 96.0% ・「学校行事が充実」項目 生徒 95.9% 保護者 96.3% 教員 100.0% ・「部活動が充実」項目 生徒 83.3% 保護者 83.0% 教員 96.0%	B	・部活動の評価が生徒、保護者ともにやや低い。次年度より全学年任意加入となることを踏まえ、今後の部活動の在り方について検討をする必要がある。 ・「さかんで充実している」という内容について具体的に考えたい。
ウ	人権意識を涵養し、成長を促す生徒指導を実践する。	・「小山高生は元気な挨拶ができる。」生徒、保護者、教員 90%以上 ・「小山高生は正しい身なりや服装が習慣化できている。」生徒、保護者、教員 90%以上	(生徒課) ・「元気な挨拶」項目 生徒 91.2% 保護者 84.4% 教員 84.0% ・「正しい身なりや服装」項目 生徒 97.4% 保護者 99.0% 教員 100.0%	B	・生徒の自己評価は昨年度と比べ 15%以上高くなった。 ・保護者、教員の評価は生徒と比べ低いため、大きな声で元気に挨拶を行うなど挨拶の質を高めていく必要がある。 ・全教職員が率先して挨拶を行う必要がある。
エ	生徒が安全・安心に登校できる教育環境を整備する。	・「小山高生は安全・安心な学校生活をおくることができている。」生徒、保護者、教員 95%以上 ・「小山高生は交通法規を守り、事故防止に努めている。」生徒、教員 90%以上 ・「友人や先生など悩みを相談できる人がいる。」生徒 90%以上	(生徒課・管理職) ・「安全・安心な学校生活」項目 生徒 98.5% 保護者 97.6% 教員 100.0% ・「交通法規遵守」項目 生徒 96.2% 教員 88.0% ・「悩みを相談できる」項目 生徒 89.1%	A	・年々、人間関係の構築に悩みを抱える生徒が増えてきている現状がある。学校として、生徒が安心できる居場所を提供するとともに、他人へ配慮した上で、その時その場でどのような言動が適切であるか、自ら考え、決定し、実行できる自己指導能力を獲得させたい。 ・定期的な施設設備の点検により、安全・安心な学校生活を送ることができるよう引き続き努めていく。
エ	働きやすい職場環境と法令遵守の姿勢を確立する。	・「(教員のみ) 教職員間のコミュニケーションは活発であり、チームとして機能している。」教員 80%以上 ・「(教員のみ) お互いのワークライフバラ	(管理職) ・「コミュニケーション」項目 教員 72.0% ・「ワークライフバランス」項目 教員 80.0%	B	・ワークライフバランスの尊重の意識が向上した。 ・教職員間のコミュニケーションは活発であるが、組織的に十分機能していないとみられる教育活動について、検討・改善を行う。

様式第3号

		ンスを尊重しつつ、教育活動に協働して取り組んだ。」教員 80%以上			
エ	地域に開かれた学校を目指して情報発信を行う。	・「保護者、中学生、地域に学校の魅力が伝えられるような情報発信をしている。」80%以上	(教務課・管理職) 生徒 85.9% 保護者 79.0% 教員 92.0%	A	公式インスタグラム更新回数 103 回、新聞掲載 34 回 (いずれも 12 月まで)、広報おやまへの掲載、地域のイベントへの出演、オープンスクール、各種説明会等、広報活動を積極的に実施した。一日体験やオープンスクールでは事前の告知も丁寧に行い、当日の来校者も多かった。 ・中学生(保護者)にどのような情報を公開してほしいか、中学校を通して聞いてもらい、それに合った情報を提供していく。